

しかし、軍艦の入港も年月とともに途絶え、みんなが同じクリスマスツリーを飾り、大量に同じトロフィーを買う時代は徐々に去っていきます。バブルが崩壊し、いかに商売を続けていくかという難しい時代になります。

そんな1993年(平成5年)に保一が、その翌年にはきぬが亡くなり、息子の雅博が社長になります。これからどんな商売をしていこうか考えを巡らせていた矢先、1995年(平成7年)阪神淡路大震災に見舞われ、センター街もアーケードが落ちるなど大きな被害を受けます。毛利マークではビルも社員も無事でしたが、ライフラインも途絶え、しばらくは仕事どころではありませんでした。



雅博は近隣店主と自警団を組織し、真っ暗なセンター街をパトロールして歩きました。元々持病をかかえていた雅博は病院に行くこともままならず症状が悪化、1997年(平成9年)49歳の若さで亡くなりました。

その後、保一の娘婿である二三夫が社長となり、1階にはテナントを迎え、毛利マークは2・3階で続けていく道を選びました。

昔のように並べている商品売るという商売だけではなく、ひと工夫必要な商品をあつかう店へと変化していています。現在では二三夫の子たちも会社に加わり、末永く店を続けていこうと頑張っております。これからの100年もご愛顧いただけますよう、よろしく願いいたします。



現在の毛利マーク

